

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490300076		
法人名	株式会社 サンテック		
事業所名	グループホーム 杉の入あさひ園	ユニット名	さくら
所在地	宮城県塩竈市杉の入4-4-16		
自己評価作成日	令和 2 年 9 月 18 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 2 年 10 月 21 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ感染症を、施設から出さない様に、職員一同細心の注意を払い対応しています。家族様との面会、外出、ボランティアさんとの交流も制限させて頂いている中、季節感を感じながら過ごせる様にと考えています。夏祭りには、入居者様に浴衣を着て頂き職員と一緒に盆踊りを踊りました。入居者様と一緒に梅ジュースやしそジュース作りをしています。夏バテ防止に一役かっています。年1度の外食は、仕出し弁当を検討しています。コロナ鍋の中でも、今できる事を考え入居者様と一緒に暮らしていきたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは国道45号線から東に少し入った住宅街の中、小高い場所にあり松島湾が一望できる。ホームは開設して3年目になる。近くに保育所や小学校、スーパーなどがある。コロナ禍以前は、敷地を開放して町内会の夏祭りが行われたり、市内の多様なボランティアが毎月来訪していた。ホームの理念「笑顔・やすらぎ・安心」と、毎月の目標を掲げ日々のケアに努めている。やさしく声がけし入居者の安心につなげている。目標達成計画の看取りの経験については、研修や経験者の指導を受けて体制は整っている。排泄の自立に向けた取り組みは、一人ひとりのパターンを職員が共有しトイレに適切に誘導し改善が見られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 杉の入あさひ園)「ユニット名 さくら 」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関とホールに掲示し毎朝、朝礼で唱和し実践につなげています。	開設してから3年目となる。「笑顔・やすらぎ・安心」の基本理念を継承している。全体会議で毎月重点目標を定めてる。「コミュニケーションを大事に」等入居者に積極的に声がけし、笑顔でケアに励んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会し、総会等に参加しています。毎年開催される夏祭りは、等事業所の駐車場で行われ入居者様も参加しています。が、今年は、コロナ感染で中止になってしまった。	町内会の夏祭りにホームの敷地を提供し、大勢で交流した。市内のボランティアが楽器や民謡、手品など披露し、紙芝居は毎月来訪していた。中学校の吹奏楽部がビデオで演奏を届けてくれている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター講座を開催予定していたが、コロナ感染のため開催できませんでした。地域の方々の相談等はいつでも対応しています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染防止のため今年度は開催していません。	市長寿社会課や町内会長と役員、家族、入居者代表が出席し2カ月に1回開催していた。コロナ予防の為4月以降中止していたが、10月から文書で報告し意見を聞いている。メンバーから労いがあった。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ感染防止のため今年度は開催していません。	運営推進会議の折に「地域支え合い活動発表会」や「認知症高齢者徘徊支援QRコード」等の情報があった。コロナ後は3密防止の対策や面会、ホームの衛生管理などを電話で相談している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を実施し職員の意識付けや、拘束しないケアを実践している。リーダー会議の時、身体拘束の有無について確認しています。	1～2カ月に1回、身体拘束適正化委員会を行い、身体拘束の有無を確認している。身体拘束ゼロ、虐待ゼロを掲げている。急な立ち上がり時に「どうかしましたか」と優しく声がけするなど、安全確保に取り組んでいる。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について勉強会を定期的実施し、職員1人1人が「虐待0」の意識を持って仕事をしています。	3グループに分け内部研修を行った。「やめて頂戴」など不適切な表現の反省があった。入居者の状況やケアの気づきをノートに記録し共有している。管理者は職員の様子を気にかけて声がけし、話を聞いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、参加した職員が講師となり勉強会を実施しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去時は、ご家族様に十分時間をかけて説明している。ご理解、納得を頂いた上で契約、解約をしています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しています。 家族や面会に来られた際意見、要望を伺っています。	ホームの夏祭りクリスマス会の終了後に家族会を開催していた。コロナ感染予防で、面会を中止している。電話で家族と会話している方もいる。遠方の家族からの要望でリモートでの面会を準備している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議の時、職員の意見、提案を聞き管理者会議の席で、協議しています。	なんでも話せるように伝えている。全体会議で意見を聞いている。勤務時間が重なる仕事の分担を話し合っって明確にした。手摺り、トイレなどをアルコール消毒にした。資格取得の際、費用の半分を助成している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内の永年勤続表彰制度を設け、やりがいの向上につなげています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の会議の時、勉強会を行っています。グループワーク形式をとり1人1人が意見を出しやすいように工夫しています。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮城県認知症グループホーム協議会に入会し、ブロック集会などで交流、情報交換をしています。	ブロック集会に管理者が出席し、施設の運営や記録、AIの活用、人材の確保、ホームの課題など多岐にわたって意見交換した。協議会からリモートでコロナについての情報や対策について伝達があった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や実態調査で得た情報を職員と共有し、統一したケアができる様に務めています。日々の関わりの中で、ご本人の思いを汲み取るように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査の時、家族様の要望や不安に思っている事を丁寧に聴き取ります。入所してからの様子を適宜報告、説明し、要望を伺いながら支援していきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを実施し、本当に必要な支援を見極め、必要性の高い物から支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る範囲で、家事(食器拭き、洗濯物たたみ等)を職員と一緒にしています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ感染症が発生するまでは、夏まつり、クリスマス会に家族様に参加して頂き、ともに楽しい時間を過ごして頂いていた。今年は、入居者様と職員で開催しました。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染症が発生するまでは、ご家族様、友人、近所の方がいつでも遊びに来れる様にしていました。現在は面会禁止にしています。	近所の友人や家族が来訪していた。馴染みの床屋へ通っていた方や盆と正月に自宅に外泊する方がいた。ユニット内は自由に行き来でき、入居者同士が昔からの知り合いのように話をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格等をふまえ、席の配置を工夫しています。職員が間に入り馴染の関係が作れるようにお手伝いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅に戻られた方などは、電話でその後の様子を伺ったり、訪問させて頂き近況、健康状態、家族様の様子を伺っています。相談等あれば包括に繋がっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、本人のふとした時の発言、本人の思いを引き出す様に努めています。	書道の練習の時、どら焼きと書いた入居者がいておやつに提供した。本人や家族から聞き取りし、得意だった裁縫を活かし雑巾づくりを皆でやったり、歌が好きだった方がチューブで懐メロを歌っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前利用していたサービス事業所、ケアマネ、家族様から話を伺っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝と入浴前にバイタルを測定し、体調のチェックを行っています。言動をケース記録に記入し、心身の状態を把握するようにしています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族様の意向をお聞きし、スタッフと話し合いを行い、現状に合った介護計画を作成しています。	6カ月の短期目標を設定し、担当職員に聞き取りモニタリングしている。問題なければ年に1回、本人や家族の意見を聞き計画を作っている。拘縮が進んできた方に、家族と相談して訪問マッサージを支援に入れた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアは詳細に記録していません。職員で情報を共有し介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域ケア会議や勉強会に出席し、地域のサービスや情報を得ています。入居者様の変化するニーズに対応できるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染症発生までは、地域の方のボランティアの受け入れ、他事業所の行事に参加し交流していました。運営推進会議で町内会の方、長寿社会課の方と情報交換していました。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、ご家族様と相談して決めています。状態変化が見られる時は、受診に同行したり、先生宛に手紙を渡してもらっています。	かかりつけ医を継続している人が多い。受診は家族同行だが職員が同行する場合もある。月2回の訪問診療を受けている方もいる。状態が変わった時など主治医に相談している。緊急時は救急車で対応している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常駐していないので、体調変化が見られたときは、往診医やかかりつけ医に連絡し、指示を受け、受診したりしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はフェースシートで、今までの経過、状態を知らせています。 退院時は、本人と面会し状態を確認、看護師さんより入院中の情報を頂いています。日頃より病院主催の研修会に参加しています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、看取りに関する指針を契約書に明記し、入居者様の体調の変化に備えています。看取りを希望される場合は、十分な話し合いをし、往診、訪問看護と連携しながらチームケアを行います。	入居契約時に「重度化(看取り)対応に関する指針」を説明している。重度化した場合に家族と相談しているがまだ看取りはない。職員は外部研修や先輩職員から終末期の状態等指導を受けて体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回救急救命講座を受講しています。緊急時対応マニュアルを用意し、緊急時に落ち着いて行動できるように努めています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法定消防訓練を年2回実施しています。町内会より、災害時は支援を頂了承を得ています。	日中1回、夜間想定1回の避難訓練を実施した。避難に要した時間が5分と訓練ごとに短縮している。地震訓練を行い、机やテーブルに身を隠し安全を確保している。町内会から万一の場合協力する申し出がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	月1回の全体会議で勉強会を開催。グループワークで自分の日頃の支援を振り返る感想が聞かれた。職員同士「ぼん」と肩をたたき振り返る時間を作るようにしています。	4月の全体会議で法令遵守、プライバシーの保護について研修した。「寝てちょうだい」等きつい言葉は皆で注意し合っている。トイレで汚して落ち込んでいる方に、優しく「誰でもありますよ」と励ましている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が選びやすいように工夫しています。難しい方には仕草や素振りを見逃さない様にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の要望を伺いながら、入居者様のペースに合わせて、安心して過ごせる様に支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	受診日や外出時は、お化粧したり、洋服を着替えたりおしゃれをして出かけられる様に支援しています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様のお誕生日には、好きな物、食べたい物をメニューにしています。食事の準備、かたづけは出来る範囲で職員と一緒にを行っています。	食材業者の1週間分のメニューが2種類あり、選択している。誕生日には希望を取り入れカツ丼や天ぷら、お汁粉などを応じている。外食の代わりに仕出し弁当のちらし寿司・天ぷらそばなどを楽しんだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量、水分量は、一人一人確認し日誌に記録しています。摂取量の少ない方には、おにぎりにしたり、好みの飲み物を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけや洗浄の支援を行っています。月1回訪問歯科の先生より指導を受け、職員のスキルアップを図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄のパターンを把握し、トイレで排泄できる様に支援しています。	食事のあとの定時の声かけや一人ひとりのパターンに合わせて誘導している。そわそわや立ち上がりの時は速やかに誘導している。リハビリパンツとパッドを使用している方が失敗がなくなり布パンツに改善した。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前、午後体操を行っています。排便の記録を取り、数日排便がない時は、冷たい牛乳を飲んで頂いたり、腹部マッサージを行っています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入居者様のタイミングで入浴できるように、支援しています。拒否される入居者様には、時間を変えたり、違う職員が声を掛けたり工夫をしています。	毎日入浴できるようにしているが、3日に1回のパターンが定着している。拒否の方には時間を置いての声かけや職員を変えて対応している。同性介助を希望する方もいる。入浴の際にバスタオルで体を覆っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	快適な温度で休んで頂けるように、各居室に温度計、湿度計を設置し調整しています。入居者様の生活習慣に合わせて休んで頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の目的、作用、法用を把握しています薬が変更になった時は、個人ケース記録に記入し、状態の変化など注意し記録しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、洗濯物たたみ、食器拭きなど、その方の出来る範囲で手伝って頂き、役割をもって暮らして頂いています。季節の行事、季節の食べ物を提供し楽しみをもって過ごせる様に支援しています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、施設の周りを散歩したりしています。年に1度は外食も行っていましたが、今年はコロナのため仕出し弁当を検討中。その他の希望される外出は、家族様に協力して頂いています。	コロナ禍で日常的な外出は出来なくなっている。天気の良い日は、敷地内の散策や庭の花を見る等している。ホームの夏祭りに浴衣を着て華やいだり、ミニミニ運動会でお手玉の缶入れやボール回しなどを楽しんだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自分んで持っていたい方は、家族様了解のもと自己管理して頂いております。通院の帰り買い物をされたりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方は、自由に電話しています。家族に電話したいと希望される方は、職員が見守りをしてかけて頂いてます。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気温や湿度は、こまめにチェックしています。食堂に写真を飾ったり、入居者様の作品を飾っています。入居者様のテーブルに庭の花を飾り季節を感じて頂いています。	2つのユニットの間に食堂があり、共有している。食堂は広く梁が見える天窓から暖かい光が差し込んでいる。大画面のテレビでユーチューブを見たり音楽で歌を歌っている。気の合う同士の会話や自由に過ごせる場所である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やリビングでは、自由に動いて頂き、気の合う方同士で話をしたり、ソファで1人庭を見ている人もいます。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅から馴染の家具や、寝具などを持ってきていただいています。遺影や仏壇などを持って来られる方もいます。	備え付けのエアコンやクローゼット、洗面台、ベッドがある。使い慣れたタンスやテレビを置き、仏壇や位牌、遺影を置いている方もいる。昼寝をする方や暇を見て荷物の整理整頓をしている姿もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者1人1人の状態を把握し、安全で、自立した生活を送れる様に支援しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490300076		
法人名	株式会社 サンテック		
事業所名	グループホーム 杉の入あさひ園	ユニット名	はぎ
所在地	宮城県塩竈市杉の入4-4-16		
自己評価作成日	令和 2 年 9 月 18 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 2 年 10 月 21 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ感染症を、施設から出さない様に、職員一同細心の注意を払い対応しています。家族様との面会、外出、ボランティアさんとの交流も制限させて頂いている中、季節感を感じながら過ごせる様にと考えています。夏祭りには、入居者様に浴衣を着て頂き職員と一緒に盆踊りを踊りました。入居者様と一緒に梅ジュースやしそジュース作りをしています。夏バテ防止に一役かっています。年1度の外食は、仕出し弁当を検討しています。コロナ鍋の中でも、今できる事を考え入居者様と一緒に暮らしていきたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは国道45号線から東に少し入った住宅街の中、小高い場所にあり松島湾が一望できる。ホームは開設して3年目になる。近くに保育所や小学校、スーパーなどがある。コロナ禍以前は、敷地を開放して町内会の夏祭りが行われたり、市内の多様なボランティアが毎月来訪していた。ホームの理念「笑顔・やすらぎ・安心」と、毎月の目標を掲げ日々のケアに努めている。やさしく声がけし入居者の安心につなげている。目標達成計画の看取りの経験については、研修や経験者の指導を受けて体制は整っている。排泄の自立に向けた取り組みは、一人ひとりのパターンを職員が共有しトイレに適切に誘導し改善が見られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 杉の入あさひ園)「ユニット名 はぎ 」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関とホールに掲示し毎朝、朝礼で唱和し実践につなげています。	開設してから3年目となる。「笑顔・やすらぎ・安心」の基本理念を継承している。全体会議で毎月重点目標を定めて。「コミュニケーションを大事に」等入居者に積極的に声がけし、笑顔でケアに励んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会し、総会等に参加しています。毎年開催される夏祭りは、等事業所の駐車場で行われ入居者様も参加しています。が、今年は、コロナ感染で中止になってしまった。	町内会の夏祭りにホームの敷地を提供し、大勢で交流した。市内のボランティアが楽器や民謡、手品など披露し、紙芝居は毎月来訪していた。中学校の吹奏楽部がビデオで演奏を届けてくれている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター講座を開催予定していたが、コロナ感染のため開催できませんでした。地域の方々の相談等はいつでも対応しています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染防止のため今年度は開催していません。	市長寿社会課や町内会長と役員、家族、入居者代表が出席し2カ月に1回開催していた。コロナ予防の為4月以降中止していたが、10月から文書で報告し意見を聞いている。メンバーから労いがあった。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ感染防止のため今年度は開催していません。	運営推進会議の折に「地域支え合い活動発表会」や「認知症高齢者徘徊支援QRコード」等の情報があった。コロナ後は3密防止の対策や面会、ホームの衛生管理などを電話で相談している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を実施し職員の意識付けや、拘束しないケアを実践している。リーダー会議の時、身体拘束の有無について確認しています。	1～2カ月に1回、身体拘束適正化委員会を行い、身体拘束の有無を確認している。身体拘束ゼロ、虐待ゼロを掲げている。急な立ち上がり時に「どうかしましたか」と優しく声がけするなど、安全確保に取り組んでいる。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について勉強会を定期的実施し、職員1人1人が「虐待0」の意識を持って仕事をしています。	3グループに分け内部研修を行った。「やめて頂戴」など不適切な表現の反省があった。入居者の状況やケアの気づきをノートに記録し共有している。管理者は職員の様子を気にかけて声がけし、話を聞いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、参加した職員が講師となり勉強会を実施しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去時は、ご家族様に十分時間をかけて説明している。ご理解、納得を頂いた上で契約、解約をしています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しています。 家族や面会に来られた際意見、要望を伺っています。	ホームの夏祭りとクリスマス会の終了後に家族会を開催していた。コロナ感染予防で、面会を中止している。電話で家族と会話している方もいる。遠方の家族からの要望でリモートでの面会を準備している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議の時、職員の意見、提案を聞き管理者会議の席で、協議しています。	なんでも話せるように伝えている。全体会議で意見を聞いている。勤務時間が重なる仕事の分担を話し合っって明確にした。手摺り、トイレなどをアルコール消毒にした。資格取得の際、費用の半分を助成している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内の永年勤続表彰制度を設け、やりがいの向上につなげています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の会議の時、勉強会を行っています。グループワーク形式をとり1人1人が意見を出しやすいように工夫しています。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮城県認知症グループホーム協議会に入会し、ブロック集会などで交流、情報交換をしています。	ブロック集会に管理者が出席し、施設の運営や記録、AIの活用、人材の確保、ホームの課題など多岐にわたって意見交換した。協議会からリモートでコロナについての情報や対策について伝達があった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や実態調査で得た情報を職員と共有し、統一したケアができる様に務めています。日々の関わりの中で、ご本人の思いを汲み取るように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査の時、家族様の要望や不安に思っている事を丁寧に聴き取ります。入所してからの様子を適宜報告、説明し、要望を伺いながら支援していきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを実施し、本当に必要な支援を見極め、必要性の高い物から支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る範囲で、家事（食器拭き、洗濯物たたみ等）を職員と一緒にしています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ感染症が発生するまでは、夏まつり、クリスマス会に家族様に参加して頂き、ともに楽しい時間を過ごして頂いていた。今年は、入居者様と職員で開催しました。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染症が発生するまでは、ご家族様、友人、近所の方がいつでも遊びに来れる様にしていました。現在は面会禁止にしています。	近所の友人や家族が来訪していた。馴染みの床屋へ通っていた方や盆と正月に自宅に外泊する方がいた。ユニット内は自由に行き来でき、入居者同士が昔からの知り合いのように話をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格等をふまえ、席の配置を工夫しています。職員が間に入り馴染の関係が作れるようにお手伝いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅に戻られた方などは、電話でその後の様子を伺ったり、訪問させて頂き近況、健康状態、家族様の様子を伺っています。相談等あれば包括に繋がっています。		
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、本人のふとした時の発言、本人の思いを引き出す様に努めています。	書道の練習の時、どら焼きと書いた入居者がいておやつに提供した。本人や家族から聞き取りし、得意だった裁縫を活かし雑巾づくりを皆でやったり、歌が好きだった方がチューブで懐メロを歌っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前利用していたサービス事業所、ケアマネ、家族様から話を伺っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝と入浴前にバイタルを測定し、体調のチェックを行っています。言動をケース記録に記入し、心身の状態を把握するようにしています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族様の意向をお聞きし、スタッフと話し合いを行い、現状に合った介護計画を作成しています。	6カ月の短期目標を設定し、担当職員に聞き取りモニタリングしている。問題なければ年に1回、本人や家族の意見を聞き計画を作っている。拘縮が進んできた方に、家族と相談して訪問マッサージを支援に入れた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアは詳細に記録していません。職員で情報を共有し介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域ケア会議や勉強会に出席し、地域のサービスや情報を得ています。入居者様の変化するニーズに対応できるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染症発生までは、地域の方のボランティアの受け入れ、他事業所の行事に参加し交流していました。運営推進会議で町内会の方、長寿社会課の方と情報交換していました。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、ご家族様と相談して決めています。状態変化が見られる時は、受診に同行したり、先生宛に手紙を渡してもらっています。	かかりつけ医を継続している人が多い。受診は家族同行だが職員が同行する場合もある。月2回の訪問診療を受けている方もいる。状態が変わった時など主治医に相談している。緊急時は救急車で対応している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常駐していないので、体調変化が見られたときは、往診医やかかりつけ医に連絡し、指示を受け、受診したりしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はフェースシートで、今までの経過、状態を知らせています。 退院時は、本人と面会し状態を確認、看護師さんより入院中の情報を頂いています。日頃より病院主催の研修会に参加しています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、看取りに関する指針を契約書に明記し、入居者様の体調の変化に備えています。看取りを希望される場合は、十分な話し合いをし、往診、訪問看護と連携しながらチームケアを行います。	入居契約時に「重度化(看取り)対応に関する指針」を説明している。重度化した場合に家族と相談しているがまだ看取りはない。職員は外部研修や先輩職員から終末期の状態等指導を受けて体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回救急救命講座を受講しています。緊急時対応マニュアルを用意し、緊急時に落ち着いて行動できるように努めています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法定消防訓練を年2回実施しています。町内会より、災害時は支援を頂了承を得ています。	日中1回、夜間想定1回の避難訓練を実施した。避難に要した時間が5分と訓練ごとに短縮している。地震訓練を行い、机やテーブルに身を隠し安全を確保している。町内会から万一の場合協力する申し出がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	月1回の全体会議で勉強会を開催。グリーンワークで自分の日頃の支援を振り返る感想が聞かれた。職員同士「ぼん」と肩をたたき振り返る時間を作るようにしています。	4月の全体会議で法令遵守、プライバシーの保護について研修した。「寝てちょうだい」等きつい言葉は皆で注意し合っている。トイレで汚して落ち込んでいる方に、優しく「誰でもありますよ」と励ましている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が選びやすいように工夫しています。難しい方には仕草や素振りを見逃さない様にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の要望を伺いながら、入居者様のペースに合わせて、安心して過ごせる様に支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	受診日や外出時は、お化粧したり、洋服を着替えたりおしゃれをして出かけられる様に支援しています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様のお誕生日には、好きな物、食べたい物をメニューにしています。食事の準備、かたづけは出来る範囲で職員と一緒にを行っています。	食材業者の1週間分のメニューが2種類あり、選択している。誕生日には希望を取り入れカツ丼や天ぷら、お汁粉などを応じている。外食の代わりに仕出し弁当のちらし寿司・天ぷらそばなどを楽しんだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量、水分量は、一人一人確認し日誌に記録しています。摂取量の少ない方には、おにぎりにしたり、好みの飲み物を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけや洗浄の支援を行っています。月1回訪問歯科の先生より指導を受け、職員のスキルアップを図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄のパターンを把握し、トイレで排泄できる様に支援しています。	食事のあとの定時の声かけや一人ひとりのパターンに合わせて誘導している。そわそわや立ち上がりの時は速やかに誘導している。リハビリパンツとパッドを使用している方が失敗がなくなり布パンツに改善した。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前、午後体操を行っています。排便の記録を取り、数日排便がない時は、冷たい牛乳を飲んで頂いたり、腹部マッサージを行っています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入居者様のタイミングで入浴できるように、支援しています。拒否される入居者様には、時間を変えたり、違う職員が声を掛けたり工夫をしています。	毎日入浴できるようにしているが、3日に1回のパターンが定着している。拒否の方には時間を置いての声かけや職員を変えて対応している。同性介助を希望する方もいる。入浴の際にバスタオルで体を覆っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	快適な温度で休んで頂けるように、各居室に温度計、湿度計を設置し調整しています。入居者様の生活習慣に合わせて休んで頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の目的、作用、法用を把握しています薬が変更になった時は、個人ケース記録に記入し、状態の変化など注意し記録しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、洗濯物たたみ、食器拭きなど、その方の出来る範囲で手伝って頂き、役割をもって暮らして頂いています。季節の行事、季節の食べ物を提供し楽しみをもって過ごせる様に支援しています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、施設の周りを散歩したりしています。年に1度は外食も行っていましたが、今年はコロナのため仕出し弁当を検討中。その他の希望される外出は、家族様に協力して頂いています。	コロナ禍で日常的な外出は出来なくなっている。天気の良い日は、敷地内の散策や庭の花を見る等している。ホームの夏祭りに浴衣を着て華やいだり、ミニミニ運動会でお手玉の缶入れやボール回しなどを楽しんだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自分んで持っていたい方は、家族様了解のもと自己管理して頂いております。通院の帰り買い物をされたりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方は、自由に電話しています。家族に電話したいと希望される方は、職員が見守りをしてかけて頂いてます。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気温や湿度は、こまめにチェックしています。食堂に写真を飾ったり、入居者様の作品を飾っています。入居者様のテーブルに庭の花を飾り季節を感じて頂いています。	2つのユニットの間に食堂があり、共有している。食堂は広く梁が見える天窓から暖かい光が差し込んでいる。大画面のテレビでユーチューブを見たり音楽で歌を歌っている。気の合う同士の会話や自由に過ごせる場所である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やリビングでは、自由に動いて頂き、気の合う方同士で話をしたり、ソファで1人庭を見ている人もいます。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅から馴染の家具や、寝具などを持ってきていただいています。遺影や仏壇などを持って来られる方もいます。	備え付けのエアコンやクローゼット、洗面台、ベッドがある。使い慣れたタンスやテレビを置き、仏壇や位牌、遺影を置いている方もいる。昼寝をする方や暇を見て荷物の整理整頓をしている姿もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者1人1人の状態を把握し、安全で、自立した生活を送れる様に支援しています。		